

国語 第1学年 はをつかおう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある5月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「声ではわと聞こえるのにどの字を書くか」を問い、誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。はを使った文の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音，拗《よう》音，促音，撥《はつ》音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使う。思考・判断・表現では、誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。交流や試行の前後を比べ、はを使った文を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直している。（B(1)ウ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。 ○考えた理由を交流し、はを使った文を仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

本時の案

本時の目標：誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「声ではわと聞こえるのにどの字を書くか」 【めあて】助詞のはの表記について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたし」の中は「わ」だけれど、その後は「は」と書く。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。聞こえた音のままわを書く姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。 3 書いたものを読み返し、「声ではわと聞こえるのにどの字を書くか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認める。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 ○教師作成の「わたしは えを かく。」を読み、「わたし」の中の「わ」と、後の「は」を区別する。自分がすることを同じように文に書く。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたし」の中は「わ」だけれど、その後は「は」と書く。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	物の名前のわと文をつなぐはを、教師作成の短文で比べる。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確認め、語や文の中で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直している。(B(1)ウ)（初稿・見直した稿・修正理由）
まとめ (分)	5 はを使った文を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】だれが何をするかを書く文では、「わたしは」のように、つなぐところの「は」を確かめて書く。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。声ではわと聞こえるのにどの字を書くかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（はを使った文と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には助詞のはの表記を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側にはを使った文で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、聞こえた音のままを書きすることである。物の名前のわと文をつなぐはを、教師作成の短文で比べる。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

はを使った文 「声ではわと聞こえるのにどの字を書くか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。物の名前のわと文をつなぐはを、教師作成の短文で比べるための補助欄も用意する。
見直しの理由を記すカード 初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606_mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

